

奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」事業趣旨と令和2年度事業について

奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」の事業趣旨

東アジア文化都市の趣旨を引継ぎ、現代社会がもつ様々な課題や事柄、今後、未来に対して、奈良が訴えていくべきこと、奈良がすべきこと、奈良だからできることを、掘り下げ考える機会とし、文化（アート）を通じて、**新たな価値の創造**につなげる。

古都祝奈良 2017-2020
での取り組み

II
「体験」

チェ・ジョンファ作品におけるワークショップ
北澤潤作品における「創造する主体」
グリーン・マウンテン・カレッジにおける学び合い
青少年と創る演劇における部活動の枠を越えた創作活動

体験者の想像性／創造性をさらに重視した市民が主役のアートプロジェクト

「アートは鑑賞するもの」という先入観への問いかけ

アートプロジェクトを通じた「新たな価値の創造」へ

令和2年度事業についての方針

- ・ 国内外での新型コロナウイルス感染拡大をうけて、各プログラムでは感染防止対策を徹底し、内容のオンライン化などにも対応しながら企画を推進します。
- ・ 新型コロナウイルスの感染状況によっては、プログラムの内容変更や延期・中止を判断します。
- ・ 新型コロナウイルスの影響を大きく受けた日々の生活のあり方について、「アート」という方法を通じて見つめなおすプログラムを展開します。
- ・ 地域とアートをつなぐ「地域コーディネーター」と共に、事業の企画や広報、運営において協働を進めます。

事業概要

事業名：奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良 2020-2021」

プログラム一覧：

- ・ 食をテーマにしたアートプロジェクト（プログラム名調整中）
参加アーティスト：EAT&ART TARO
プログラムディレクター：西尾美也
- ・ 演劇創作&公演（プログラム名調整中）
プログラムディレクター：田上豊
- ・ グリーン・マウンテン・カレッジ
校長：小山田徹
- ・ 平田オリザの演劇ワークショップ
講師：平田オリザ

地域コーディネーター：一般社団法人 はなまる

食をテーマにしたアートプロジェクト（プログラム名調整中）

EAT&ART TARO は、芸術祭や地域アートプロジェクトを主な活動舞台に、作品を発表してきました。数々のプロジェクトを通して、「食べる」という行為が単純な生命維持活動なのではなく、状況やコミュニケーションに左右されるものだということを参加者に実感させます。

新型コロナウイルスの感染拡大により私たちの日々の営みは大きく変容せざるを得ない状況に陥りました。「食べる」という行為もそのひとつです。コロナ禍を経験した今、食に関するアートプロジェクトを展開することで、私たちにとって「食べる」ということの意味について問い直します。

<プログラム案>

□ 夕飯コンシェルジュ／EAT&ART TARO

障害のあるなしや家庭環境、働き方、料理技術などによって、何をどのように食べるかについて悩む人は多いと思います。《夕飯コンシェルジュ》は、そうした誰にとっても日常の悩みである夕飯について、管理栄養士などで構成されるコンシェルジュとのコミュニケーションを通して一緒に考えるプロジェクトです。

□ その他プログラム／EAT&ART TARO（調整中）

アーティスト：EAT&ART TARO（いーとあんどあーと・たろう）

全国各地のアートイベントや地域コミュニティで食を通じたアート活動を展開する現代美術作家。瀬戸内国際芸術祭では、「島スープ」（2013）、「讃岐の晚餐会」「ALL AWAY CAFE」（2016）で多くの人々に地域の味と交流を提供した。また、いちばら×アートミックス 2014 や奥能登国際芸術祭 2017 でも食にまつわるアートプロジェクトを展開するなど、日本各地で活躍している。

プログラムディレクター：西尾美也

1982 年奈良県生まれ、同在住。美術家。東京藝術大学大学院美術研究家博士課程修了。文化庁芸術家在外研修員（ケニア共和国ナイロビ）などを経て、現在、奈良県立大学地域創造学部准教授。本事業のきっかけになった東アジア文化都市 2016 奈良市「古都祝奈良」出展作家。装いの行為とコミュニケーションの関係性に注目した作品や日本とアフリカをつなぐアートプロジェクトを各地で展開している。

演劇創作&公演（プログラム名調整中）

新型コロナウイルスの感染拡大により「人が集うこと」や「人と触れ合うこと」がリスクとして捉えられるようになりました。「古都祝奈良」ではこれまで「青少年と創る演劇」や「平田オリザの演劇ワークショップ」により対人関係を学びコミュニケーション能力を高める「演劇」の力を表現してきました。「青少年と創る演劇」の演出を務めてきた田上豊をプログラムディレクターに迎え、市民等を対象とした演劇創作&公演プログラムを展開することで、コロナ禍におけるコミュニケーションの形を見出すことに挑戦します。

プログラムディレクター：田上豊

劇作家・演出家。田上パル主宰。富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督。尚美学園大学非常勤講師。1983 年熊本県生まれ。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。在学中に劇団「田上パル」を結成。方言を多用し、軽快なテンポと遊び心満載の演出で「揺らぐ人間像やその集団」を描き出すのを得意とする。

中高生や大学生との創作、市民劇団や公共ホール事業への書き下ろしなど、様々な形で活動を展開。創作型から体験型、育成講座まで幅広くワークショップも行う。「古都祝奈良 2019-2020」プログラムディレクター、劇団青年団演出部所属。

グリーン・マウンテン・カレッジ

グリーン・マウンテン・カレッジは、美術家の小山田徹を校長に迎え、参加者とともに対話を繰り返す「学び合いの場」として平成 30 年度から実施しています。

コロナ禍のなかで必要とされるのは「空気の共有」と「心の濃厚接触」であると小山田は言います。これまで焚き火の周りに人々が集う方法で実施していた本企画。今回は、小さな火を並べた会場で参加者は一定の距離をとりながらも同じ空間を体感することで心を寄せ合います。

校長：小山田徹

1961 年鹿児島県生まれ、京都府在住。美術家／京都市立芸術大学美術学部教授。1984 年大学在学中に友人たちとパフォーマンスグループ「ダムタイプ」を結成。主に企画構成、舞台美術を担当し、国内外の数多くの公演に参加。1990 年から、「ウィークエンドカフェ」、「コモンカフェ」、「カラス板屋」や「Bazaar Cafe」など、さまざまな友人らと造形施工集団を作り共有空間の開発を行う。

平田オリザの演劇ワークショップ

日本の現代演劇を牽引してきた劇作家・演出家であり、幅広い演劇教育活動を展開している平田オリザによるワークショップ。

講師：平田オリザ

劇作家・演出家・「青年団」主宰。こまばアゴラ劇場芸術総監督・城崎国際アートセンター芸術監督。1962 年東京都生まれ。国際基督教大学教養学部卒業。大阪大学 CO デザインセンター特任教授、東京藝術大学 COI 研究推進機構特任教授、その他多数の機関で役職を務める。主な著作に、『演劇入門』（講談社現代新書）、『芸術立国論』（集英社新書）、『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』（講談社現代新書）、『下り坂をそろそろと降る』（講談社現代新書）。